

令和4年度 経営改革プラン

団体名	公益財団法人神戸市民文化振興財団	
設立年月日	昭和57年10月1日	
団体の設立目的・沿革	心の豊かさを内包した生活の質向上を求めようとする市民の幅広い多様な文化的欲求に対応し、神戸文化を育て、自由な発想にもとづく文化活動の豊かな展開をすすめるため、神戸市民文化振興財団を設立したものである。	
団体の主な事業内容	事業名	所管課
	神戸室内管弦楽団	文化スポーツ局文化交流課
	神戸市混声合唱団	文化スポーツ局文化交流課
	文化振興事業	文化スポーツ局文化交流課
	文化ホール指定管理	文化スポーツ局文化交流課
	文化センター指定管理	文化スポーツ局文化交流課
	神戸アートビレッジセンター指定管理	文化スポーツ局文化交流課
代表者	理事長 服部 孝司	

役職員数 (令和3年7月1日時点)	評議員、理事		監事		職員		合 計
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	有期	無期	
団体固有職員	-	-	-	-		23	23
市派遣職員	1	1	-	-		10	12
市OB職員	1	-	-	-	-		1
その他	1	18	-	2	194	1	216
合 計	3	19	-	2	194	34	252

財務状況 (単位：百万円)	令和2年度	令和元年度	差引
経常損益	△ 96	29	△ 125
当期正味財産増減額	△ 96	28	△ 124
流動資産	425	297	128
流動負債	513	269	244
長期借入金 (固定負債)	0	0	0
期末現金預金残高	327	199	128

■中長期的なミッション（神戸市行財政改革方針2025期間中のミッション）

ミッション①	自律した事業運営に向けた財政基盤の強化
ミッション②	神戸市民文化振興財団の強みとなる人材の育成強化・人材マネジメントの確立
ミッション③	市民文化振興への積極的な貢献及び文化芸術を通じたシティプロモーションや神戸の都市ブランドの向上
ミッション④	指定管理施設における事業運営の強化

■短期的なミッション（令和4年度のミッション）

ミッション①	部門ごとの収支構造の点検及び事業内容の点検・見直し
ミッション②	業務内容に合わせた研修の実施
ミッション③	「KOBE C 情報」のブランド力の向上
ミッション④	地域の文化芸術活動にかかる情報・知見の蓄積、及び、ネットワークの拡大
ミッション⑤	文化センター共通のサービスの均質化
ミッション⑥	幅広い世代に利用される（未利用層を取り込む）魅力的な事業の企画実施

■経営指標（令和2年度）

経営指標				令和元年度	令和2年度	前年度比増減
人的パフォーマンス	職員一人あたり純利益	純利益/職員数	職員1名あたりが、どの程度の利益を上げているか。(百万円)	0.369	▲ 1.144	-1.5ポイント
	経常費用人件費比率	人件費/経常費用×100%	経常費用に占める人件費の割合がどの程度あるか。	17.19%	15.78%	-1.4ポイント
財政的パフォーマンス	総資本経常利益率	経常利益/総資本×100%	経常的な収益性はどの程度見込まれるか。	5.50%	-14.00%	-19.5ポイント
	流動資産回転率	売上高/流動資産×100%	流動的な資金が効率的に運用されているか。	706.12%	541.62%	-164.5ポイント
財政安定性	流動比率	流動資産/流動負債×100%	短期的な資金をどの程度確保できているか。	110.40%	82.82%	-27.6ポイント
	自己資本比率	自己資本/総資本×100%	団体固有の資本がどの程度あるか。	49.12%	24.40%	-24.7ポイント
持続性	自己資本当期純利益率（ROE）	当期純利益/純資産×100%	資本を効率的に運用しているかか。	10.79%	-57.55%	-68.3ポイント
	純資産増加率	(当期純資産-前期純資産)/当期純資産×100%	純資産が持続的に増加しているか。	10.79%	-57.55%	-68.3ポイント

■ ミッション工程表

ミッション名	令和4年度			令和5年度			令和6年度			令和7年度～		
中長期的ミッション												
自律した事業運営に向けた財政基盤の強化	経費削減への継続的なチャレンジ 及び官民他各種助成金の活用等による収入の多様化及び強化											
神戸市民文化振興財団の強みとなる人材の育成強化・人材マネジメントの確立	固有職員のうち、幹部候補生の育成 外部専門人材による人脈・経験の若手職員への継承											
市民文化振興への積極的な貢献及び文化芸術を通じたシティプロモーションや神戸の都市ブランドの向上	演奏事業における好循環の継続 「こうべ文化芸術相談窓口」事業及びKOBE C情報の継続的な運営											
指定管理施設における事業運営の強化	各指定管理施設運営の継続的な強化 次期KAVC指定管理の検討						次期文化センター指定管理の指定獲得			次期文化ホール及び新・神戸文化ホール指定管理運営事業者の指定獲得		
ミッション名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
短期的ミッション												
部門ごとの収支構造の点検及び事業内容の点検・見直し	継続的に点検及び見直しを実施											
業務内容に合わせた研修の実施	5月 新規採用者等研修		7月～12月(予定) 人材養成事業研修			その他の研修については時期調整中						
「KOBE C 情報」のブランド力の向上	ブランド構築に効果的なタイミングでの広報の実施等の継続的な展開											
地域の文化芸術活動にかかわる情報・知見の蓄積、及び、ネットワークの拡大	「こうべ文化芸術相談窓口」事業の継続的な展開											
文化センター共通のサービスの均質化	サービスの均質化及び向上にかかる取組み（例：文化センター共通のサービスのマニュアルの作成）											
幅広い世代に利用される（未利用層を取り込む）魅力的な事業の企画実施	新規事業の継続的な開発											

■ ミッションを踏まえた団体目標

<p>目 標 及 び 実 現 方 法</p>	<p>目標 (できるだけ達成度を表す 数値目標も記載)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正味財産増減額が2期連続で プラス ・ 課長級以上に占める外部人材及び内部登用人材の比率6割 ・ C情報等のフォロワー数1万人以上またはC情報HP年間アクセス数対令和3年度比3倍、屋内・屋外を問わず、過去1年間で芸術文化を鑑賞した人の割合(絵画・音楽・演劇・映画・ダンスなど)：ネットモニターアンケート調査80% ・ 幅広い世代が参加できる講座・事業(例：子どもたちの日本の伝統文化教室、鑑賞・体験等 ※貸館事業で行われているもの含むの参加者数の対令和3年度比20増、文化ホール・各区文化センター・神戸アートビレッジセンターの連携事業数の対令和3年度(中止含む)比20%増、新・文化ホール開館準備に向けた先進的なプレ事業数(毎年1回以上)
	<p>・ 継続実施している事務事業の見直しについて、市の補助事業予算大幅削減に対応し更に強化</p>	
	<p>・ 外部専門人材の積極登用による財団運営強化及び専門性向上や人的ネットワーク拡大によるプロパー人材育成</p>	
	<p>・ 掲載元(主催者)と連携したC情報の露出拡大及び各種イベント情報発信メディアとの連携強化</p>	
	<p>・ 各文化センターにおけるイベントや短期の講座など気軽に芸術文化に触れられる機会の増加</p>	
	<p>・ 幹部会及び拡大幹部会に加え、グループウェア導入等による幹部間コミュニケーション強化</p>	
	<p>・ 新・文化ホールに向けた先進的なプレ事業のための、早期体制確立と確実な事業推進</p>	

■ 市支援策の活用状況

<input checked="" type="checkbox"/> 外郭団体共通内部通報窓口	<input type="checkbox"/> 経営懇談会	<input checked="" type="checkbox"/> 外郭団体職員向け研修	<input type="checkbox"/> 民間代替性調査
<input type="checkbox"/> 専門家紹介制度	<input type="checkbox"/> 経営診断	<input type="checkbox"/> 企業統治状況調査	

■ ミッションの達成状況（団体自己評価）

（1）中長期的ミッションの達成状況

- ・ 自立した事業運営に向けて、外部助成金の大幅増加（新規助成金4件）など収入の多様化及び強化に取り組み、演奏事業楽団員の報酬削減等、事業見直しや経費削減に取り組んだ。
- ・ 外部専門人材によるアートマネジメント講座（参加者数148人）を学生や他館スタッフだけでなく、職員研修としても活用するとともに、舞台技術関係の学科を有する専門学校との包括連携により職員の専門性の向上に取り組んだ。
- ・ こうべ文化芸術相談窓口を通じてアーティスト等との連携（意見交換会の実施等）に取り組み、神戸C情報とウェブサイトにおいて連携することで、相談事項の解決やC情報（フォロワー数2,043人）へのアクセス数の増加につなげた。
- ・ 手話裁判劇テロやこどもコンサートなど、多様性や社会包摂的意義を有する事業を実施する等、文化芸術を通じたシティプロモーションや都市ブランドの向上に取り組んだ。（社会包括型の自主事業6回、多文化共生を目指す自主・共催事業等11回。）
- ・ 伝統文化の継承に資する事業や地域性を活かした事業を文化センターで実施（各文化センターで地域文化活性化事業を年3回以上実施）するとともに、文化ホール・文化センターだけでなく、文化センター・文化財課など、他主体との連携事業も展開した。

（2）短期的ミッションの達成状況

- ・ 決算見込みに基づき、幹部による事業収支の点検や役員ヒアリングを行う場を設けるとともに、幹部会において事業情報の共有や見直しについて協議した。
- ・ 新規採用職員向けの研修や外部専門人材によるアートマネジメントやキャリアプランの研修等を実施した。
- ・ こうべ文化芸術相談窓口と「KOBE C情報」が有機的に連携し、財団主催事業に限らず、広く文化芸術イベント等の情報をアーティストなどから直接情報収集し、情報発信を行い、C情報のアクセス数がR3年度の1.5倍以上に上昇した。
- ・ こうべ文化芸術相談窓口については、開設以降、約100件の相談を受付、令和4年度には相談者との意見交換会を企画実施した。また、連携して事業を行う見込みのたつた案件が複数ある。
- ・ 文化センターにおけるサービスの均質化や向上のため、館長会等での情報共有、マニュアル作成を進めている。
- ・ ろう者・聴者・視覚障がい者が共演する手話演劇や0歳児から参加できるコンサートなど多様性や社会包摂的意義のある事業を実施した他、他ホールと連携した音楽劇（1件）など魅力的な事業を実施した。

（3）市政への貢献・市民への還元状況

- 神戸のシティプロモーションやシビックプライドの浸透・醸成にもつながる質の高い神戸らしい事業の実施や地域における芸術文化の振興。
- ・ フルートコンクールの披露演奏会や神戸市室内管弦楽団の特別演奏会を東京や大阪といった市外で実施、音楽評論家やマスコミ等を招くことで、市外での知名度向上や評判形成を図った。
 - ・ 手話裁判劇テロの関西えんげき大賞トリプル受賞
 - ・ 文化センター内での中高生の学習スペースの設置や、安価な受講料による子ども向け講座事業の実施
 - ・ 0歳児から参加できるコンサートや、小学校を対象にしたインリーチ・アウトリーチ事業などの普及啓発事業

■外郭団体マネジメント推進本部の評価

(1) 総合的意見

・短期的ミッションのうち、ミッション⑤「文化センター共通のサービスの均質化」については、早急に対応等のマニュアルを作成し、サービスの均質化及び高質化を図ること。その他5項目についても、継続または拡充して取り組むこと。ただし、ミッション③「「KOBE C 情報」のブランド力の向上」については、団体目標として定めている数値までは大きく差があるため、例えば、財団管理施設における事業（貸館も含む）や、市立博物館等の他施設の事業も紹介を行う等、文化交流課と協力しながら達成に向けて一層取り組むこと。

・中長期的ミッションについて、未達成状態であるミッション③「市民文化振興への積極的な貢献及び文化芸術を通じたシティプロモーションや神戸の都市ブランドの向上」については、対市外をターゲットとしている点を再認識し、事業の実施に努めること。また、ミッション④「指定管理施設における事業運営の強化」については、サービスの均質化・高質化および現状ほとんど利用されていない層の利用者増を図っていくこと。

・団体目標やミッションのうち、達成している項目についても、効果と実績の検証を行い、市政への貢献・市民への還元観点では文化交流課と双方向のコミュニケーションを活発にし、実施内容を検討して引き続き実施していくこと。

(2) 数値目標の状況

評価項目	評価・指導
中長期的ミッション	ミッション③について、事業に取り組んではいるものの、市外から人流を誘引するほどのシティプロモーションが達成できたとは言えない。 ミッション④についても、サービスの均質化及び高質化、また、こどもや若い世代、障害のある方の利用増が達成できたとは言えない。
短期的ミッション	ミッション⑤について、マニュアルが未作成である。
団体目標	一般正味財産、C情報及び屋内外を問わず文化芸術を鑑賞した人の割合の項目が、設定した数値目標に達していない。
市への貢献・市民への還元状況	文化交流課と双方向のコミュニケーションを活発にして取り組みを検討し、拡充していくこと。

(3) 今後の方向性

- 団体の存廃も含めた検討を要する団体
 継続的な見直しを要する団体
 取り組みが着実に実施され成果が上がっている団体